

1. 共通工事

1-1 掘削

(1) 伐開・除根状況



撮影方法

- 全体の状況がよくわかる位置から撮影する。
- 施工前・施工後の撮影場所、アングルは同一とし、特にズーム機能のあるカメラの場合、倍率も同じにする。

留意事項

- 伐開樹木の密度、寸法がわかるような撮影とする。
- 黒板の記入内容がわかるようにする。
- 施工前・施工後のアングルが異なるので施工範囲がわかりにくい。

1-1 掘削

(2) 表土はぎ状況

施工前



留意事項

- 施工前の地形の状況がわかりにくいので、施工前の地形と対比した、はぎ取り厚さが確認できない。

撮影方法

- 施工前・施工後の撮影場所、アングルは同一とし、特にズーム機能のあるカメラの場合、倍率も同じにする。
- 使用機械とともに、施工状況全体が確認できる撮影位置、アングルで撮影する。
- 施工の連続性が確認できるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械名を記入する。

施工後



留意事項

- 作業員がスタッフを持ち、地形の勾配や広さの状況がわかりやすい。
- 逆光で黒板の記入内容が読みにくい。
- 施工前、施工後の場所、アングルが異なり全体の状況がわかりにくい。

撮影方法

- 施工範囲の全体を入れ、施工後の地形の状況がわかるように撮影する。
- 施工前と同じ撮影位置・アングルで撮影する。
- はぎ取り後の地質や施工仕上り面がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容

1-1 掘削

(3) 堀削断面の出来形確認状況



留意事項

- 「断面出来形寸法の枠」の正面からのアングルで、断面と背後の連続性がわかりやすい。
- 「断面出来形寸法の枠」に寸法が表示されていないので、リボンロッドを用いて寸法が確認できるようにする。

撮影方法

- 出来形寸法はもちろんのこと、後方の連続性もわかるアングルで撮影する。
- 断面が連続して一定の場合は、「断面出来形寸法の枠」を測定断面に入れて撮影する。
- 出来形管理を行う必要がある場合には、リボンロッドにより寸法確認できるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

(4) 法長の測定状況



留意事項

- 撮影した写真に赤インクで法長などが記入してあり、確認しやすい。
- 法肩・法尻などがわかるようにピンポールなどを立てる。
- 実測寸法の目盛アップも撮影する。

撮影方法

- スタッフやリボンロッドなどを用いて、法長の実測寸法が確認できるようなアングルで撮影する。
- 測定範囲の起終点がわかるようにピンポールを立てる。
- 測定箇所はもちろんのこと、前後の状況もわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

1-1 掘削

(5) 切土法面勾配の測定状況



留意事項

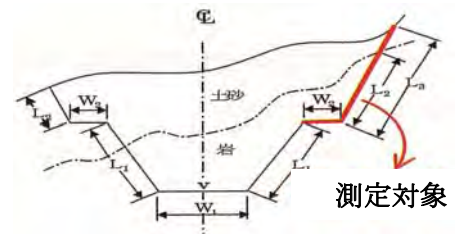
- $H = 1.0\text{ m}$ 、 $W = 0.5\text{ m}$ の勾配五分がスタッフと黑板の略図と一致してわかりやすい。
- スタッフを組み合わせると勾配が確認できる。
- スタッフの水平、垂直に注意する。※必要に応じて水平器を用いる。

撮影方法

- スタッフやピンポールなどを組み合わせて勾配が確認できるように工夫して撮影する。
- 測定箇所前後の連続性もわかるように撮影する。

黑板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 設計勾配・実測勾配
- 断面略図を記入する。



(6) 排水側溝の出来形確認状況



留意事項

- 撮影対象をアングルの中央において撮影する。
- 斜面にもポールを沿わせて配置すれば法の形を表現できる。
- 背後が作業員と黑板でさえぎられ、出来形の連続性が確認できない。

撮影方法

- 出来形寸法とともに、前後の連続性が確認できるように撮影する。
- スタッフやピンポールなどを用いて断面がわかるように撮影する。

黑板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。

1-2 盛 土

(1) 盛土幅員の測定状況



留 意 事 項

- リボンロッドを立てて、目盛をカメラの正面に向ける。
- 背後に使用機械の一部が見えるが、アングルを上げれば機種などの状況がわかりやすい。
- 撮影者の陰が入らないようにする。

撮 影 方 法

- 出来形寸法とともに、背後の状況が確認できるように撮影する。
- リボンロッドを使用する場合は、たるませないように留意する。
- 測定範囲がわかるように、起終点に、ピンポールを使用する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測 点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。

(2) 盛土の転圧状況



留 意 事 項

- 左の杭に転圧層が表示されているので、何層目かわかりやすい。
- 転圧回数がわかるように工夫する。

撮 影 方 法

- 使用機械はもちろんのこと、作業状況がわかるように撮影する。
- 転圧状況や仕上がり面が確認できるように工夫して撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械名
- 転圧層数・転圧高を記入する。

1-2 盛 土

(3) まき出し厚さの確認状況



留 意 事 項

- 右下の余分なスペースが大きく写っているので、まき出し部分を主として撮影する。

撮 影 方 法

- スタッフやポールを用い、一層のまき出し厚が確認できるように撮影する。
- 使用機械を入れ、作業全体がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

(4) 盛土法面勾配の測定状況



留 意 事 項

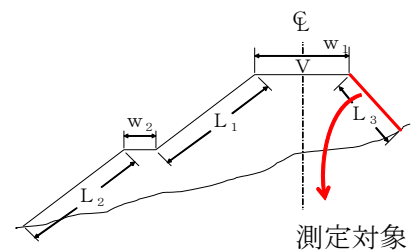
- 盛土の連続性がわかりやすい。
- スタッフに水準器を付けているが、取付位置が悪いため水平・垂直の確認ができない。

撮 影 方 法

- スタッフやロッドなどを組み合わせて勾配の確認ができるように工夫する。
- 測定箇所前後の連続性もわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測 点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。



1-3 石積み（張）・ブロック積み（張）

（１）基礎砕石の出来形確認状況



留意事項

- 全体的な仕上げ状況がわかりやすい。
- スタッフをカメラの正面に向け、ピンポールを用いているので、目盛が確認できる。
- 起終点をピンポールで表示する。

撮影方法

- 出来形はもちろんのこと、全体的な仕上げ状況がわかるよう撮影する。
- ピンポールを用いて、厚さや幅が確認できるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

（２）基礎コンクリートの出来形確認状況



留意事項

- ピンポールを左スタッフの目盛にあて、その他寸法と合わせて、すべてが確認できるようにあて尺が設置されている。
- 背景（後）に十分注意する。
- 起点が出ており注意が必要。

撮影方法

- あて尺を正確に設置し、出来形寸法が確認できるように撮影する。
- ピンポールを用いて目盛が確認できるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

1-3 石積み（張）・ブロック積み（張）

（3）裏込の出来形確認状況



留意事項

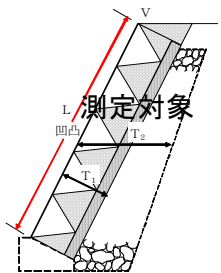
- 裏込コンクリート及び碎石と積みブロックを合わせた T_2 は、施工管理基準にしたがい、あて尺を水平におき測定する。

撮影方法

- 出来形寸法が確認できるようにスタッフや丁張りなどを工夫して撮影する。
- 測定位置がわかるように、縁石にマーキング等を行うとよい。
- 必要に応じ、ピンポールを使用する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。



（4）ブロック法長の測定状況



留意事項

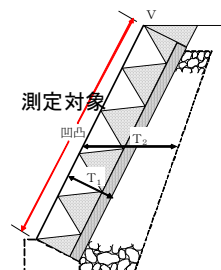
- 起終点にピンポールなどをあて、目盛がわかるようにする。

撮影方法

- 測定箇所の起終点をはっきりわかり、スタッフ・ロッドなどで法長の実測寸法が確認できるように撮影する。
- ピンポールを用いて目盛が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。



1-3 石積み（張）・ブロック積み（張）

（５）ブロック張（フィルター）の出来形確認状況

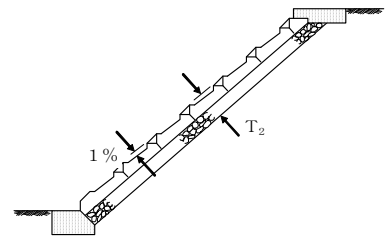


撮影方法

- 出来形はもちろんのこと、全体的な仕上げ状況がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記し、測定箇所を表示する。



留意事項

- 設計厚は斜面に直角であることがよくわかるように、斜面の横から撮影するような工夫をする。

（６）ブロック張状況



撮影方法

- 使用機械（クレーン）はもちろんのこと、全体の作業状況がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- ブロックの規格・重量
- 吊り下げ機械の種類・規模を記入する。

留意事項

- 吊り下げ前の資材、吊り下げ機械（クレーン）、作業員の配置がわかりやすい。
- 設置作業がわかるようにアップも撮影する。
- 黒板を入れて撮影する。

1-4 基礎杭打工

(1) 鋼管杭打込状況



留意事項

- 打込み機などの主要な機械の設置状況と周囲の状況が確認できる。
- 黒板を入れて撮影する。

撮影方法

- 主要機械の特徴と周囲の状況がわかるようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 杭種・規格・施工数量
- 杭位置・番号を図示する。

(2) リバウンド量の測定状況



留意事項

- リバウンド量などから動的支持力を推定し、打ち止めを決める。その測定方法がわかりやすく撮影されている。
- 作業員が杭打機側におり、危険に見えるため、作業位置を変えて撮影する。

撮影方法

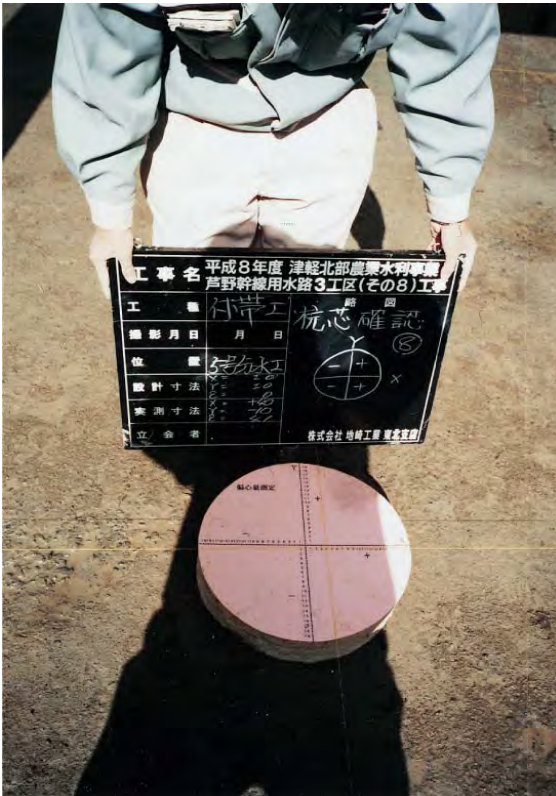
- リバウンド量の測定状況がわかるように撮影する。
- リバウンド量のアップも撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 使用機械
- 杭位置・番号を図示する。

1-4 基礎杭打工

(3) 偏心量の測定状況



撮影方法

- 偏心量の確認ができるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 作業内容
- 杭位置・番号を図示する。

留意事項

- 水糸を用いているので、芯からの偏心量がわかりやすい。
- 撮影者の影が入らないように撮影する。
- 水糸が明瞭に写るように工夫する。

(4) 基準高の測定状況



撮影方法

- 撮影部位が全体のどこに位置するかわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 作業内容
- 杭種・規格
- 設計寸法・実測寸法
- 杭位置・番号を図示する。

留意事項

- 打込み後の杭がどこに位置するかわかりにくい。
- 撮影に支障となる余分なものを片付けて撮影する。

1-4 基礎杭打工

(5) 杭打込み完了後



留 意 事 項

- 杭間隔等がわかるように、ポール又は標尺を置く。
- 全体数が確認できるような高アングルで撮影するように工夫する。
- 黒板を入れて撮影する。

撮 影 方 法

- 全体数量が確認できるアングルから撮影する。
- 杭番号をマーキングして、杭の配置がわかるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 杭種・杭規格・長さ
- 杭位置（ピッチ・本数）を図示する。

1-5 矢板打工

(1) 打込位置の確認状況（鋼矢板）

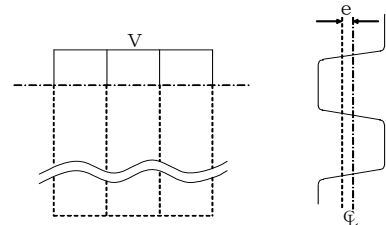


撮影方法

- 中心線のズレが明確に確認できるように基準線を設置して撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 中心線のズレを図示する。



留意事項

- 水系などの基準線が設置されていない。
 - 水系がわりのピンポールは位置が動きやすく、あいまいである。
- △測定箇所のアップも撮影する。

(2) 笠コンクリートの出来形確認状況



撮影方法

- 出来形寸法が正確に確認できるようなアングルで撮影する。
- 前後の連続性が、わかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。

留意事項

- 背後の連続性がわかりやすい。
- 黒板の記入内容が明確である。
- Hの確認ができるように、標尺の位置を工夫する。

1-6 オープンケーソン

(1) 長さ・厚さの確認状況



留意事項

- リボンロッドが水平に張られているかわかりにくい。
- リボンロッドの正面から撮影し、水平と形状・実測寸法がわかるようにする。

撮影方法

- 測定位置がわかるようにマーキングを行う。
- 撮影部位が全体のどこに位置するかわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入し、測定箇所を表示する。

(2) 高さの測定状況



撮影方法

- 測定範囲全体がわかるように撮影する。
- 全体が入らない場合は、リボンロッドの横に数値をマーキングし、数枚の撮影を行い全体をわかるようにする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。

留意事項

- リボンロッドの下端が見えないので、どの部分を測定しているかわかりにくい。
- カメラアングルを水平にして、リボンロッドと黒板が垂直になるように撮影する。

1-6 オープンケーソン

(3) 施工状況 (全景)



留 意 事 項

- 高位置からコンクリート打設状況が撮影されており、使用機械の状況がわかりやすい。
- 黒板を入れて撮影する。

撮 影 方 法

- 施工状況全体がわかるよう撮影する。
- コンクリート打設工法の特徴がわかるように、使用機械の状況とともに撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械名を記入する。

1-7 栗石基礎・碎石基礎・砂基礎・均しコンクリート

(1) 目潰材敷均し状況（碎石基礎）



留意事項

- 使用材料がどのような現場状況で使用されているかわかりやすい。
- 正面から撮影する方が、材料や全体がわかりやすい。

撮影方法

- 敷均し作業とともに、前後の連続性も確認できるアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 碎石の規格を記入する。

(2) 転圧状況（碎石基礎）



留意事項

- 前後の連続性がわかりやすい。
- 使用機械を手前に置き規格がわかるようにする。
- 転圧回数がわかるように工夫する。

撮影方法

- 使用機械とともに、施工前・施工後の状況がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械名・規格を記入する。

1-7 栗石基礎・碎石基礎・砂基礎・均しコンクリート

(3) 幅の測定状況（砂基礎）



留意事項

- 基礎厚さを測定しているものではない。まぎらわしいので目的別で撮影する。
- 黒板がリボンロッドに隠れている。
- 起終点はポールよりピンポールがよい。

撮影方法

- 出来形寸法とともに、背後の状況が確認できるように撮影する。
- リボンロッドはたるまないように張力を加えて撮影する。
- 測定範囲がわかるように起終点にピンホールを使用する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

(4) 幅の測定状況（均しコンクリート）



留意事項

- 起終点にピンポールを使用し、測定範囲が確認できる。
- アングルを少し下げると、スタッフの正面の目盛がさらにわかりやすく、背後の連続性も確認できる。

撮影方法

- 出来形寸法とともに、前後の連続性がわかるように撮影する。
- リボンロッド、スタッフの正面から撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

1-8 精度を要するもの・分土工計量部・ゲート戸当部・橋台沓部

(1) ゲート部 (全景)



撮 影 方 法

- 機能、構造はもちろんのこと、周囲の状況も含めて撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 扉体形式・寸法を記入する。

留 意 事 項

- アングルを下に向け水路との関連を明らかにするか、横向きのアングルで設置状況がわかるように撮影する。
- 説明図として概略図をつける。
- 黒板を入れて撮影する。

(2) 箱抜き寸法の測定状況



撮 影 方 法

- 幅・長さ・深さの実測値が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

留 意 事 項

- スケールを適切においているので、幅・長さ・深さが確認できる。
- 寸法・黒板の記入内容が確認できる。
- 箱抜きの底の状況も確認できる。
- 設計寸法を上段、実測寸法を下段（朱書き）に併記するなどし、値が一目瞭然となるよう記載する。

1-8 精度を要するもの・分土工計量部・ゲート戸当部・橋台沓部

(3) 出来形寸法の測定状況（土砂吐工）



留意事項

- 底版の高さが、奥に向かって下がっている状況がわかるように撮影されている。
- 右側壁の実測寸法の目盛が手に隠れて見えない。

撮影方法

- アングルに配慮し、リボンロッドの正面から撮影する。
- リボンロッドを使用する場合は、たるませないように留意する。
- 前後の連続性がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。

(4) 出来形寸法の測定状況（橋脚工）



留意事項

- 測定位置が全体のどこに位置するのかわからない。
- 全体写真と部分写真・分割写真との組み合わせを工夫する。
- 手前のリボンロッドが曲がってたるんでいる。

撮影方法

- 測定範囲の全体が確認できるように撮影する。
- 測定箇所の起終点がわかるように撮影する。
- リボンロッドを使用する場合は、たるませないように留意する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。

1-9 U字溝・U字フリューム・ベンチフリューム

(1) 基礎の出来形確認状況



撮影方法

- スタッフの下端と水平面を明確にして、基礎厚の出来形寸法が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。

留意事項

- 測定孔が大きく、スタッフの下端が確認できる。
- スタッフやピンポールを目盛にあて、実測寸法が確認できる。

(2) U字溝の施工状況



撮影方法

- 使用機械や使用材料がわかるように撮影する。
- 機械を用いた据付け状況が把握できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 施工機械・U字溝の規格を記入する。

留意事項

- 作業員の据付け状況が見えにくい。
- 左に移動し、クレーンや据付けの全体がわかるような撮影位置やアングルを工夫する。

1-10 土 水 路

(1) 掘削断面の出来形確認状況



留 意 事 項

- 底幅などの出来形寸法が確認できない。
- 黒板を正面に向け、記入内容が読めるようにする。
- スタッフ・ピンポールを用いて、底幅を含む断面寸法がわかるようにする。

撮 影 方 法

- 出来形寸法とともに前後の連続性が確認できるように撮影する。
- スタッフ、ピンポールなどを用いて断面がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工 事 名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 断面略図を記入する。

1-11 鉄筋組立

(1) 配筋確認状況



留意事項

- 鉄筋の径が区分できるようにマーキングされている。
- マーキング箇所が多いため、撮影枚数を分割して撮影するとわかりやすい。
- 鉄筋の上に乗る場合は、足場板を設置する。

撮影方法

- 鉄筋の径がわかるようにマーキングを行い撮影する。
- 配筋の状況がわかるように撮影する。
- 鉄筋間隔等がわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 鉄筋間隔・径を記入する。

(2) 鉄筋かぶり確認状況



留意事項

- 目盛りがわかるようにアップで撮影されている。
- あて木・ピンポールなどをあて、寸法測定箇所を明確にする。

撮影方法

- 鉄筋かぶりがわかるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法を記入する。